

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 関口智子	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育</p> <p>① 平成 26 年度時間割の再編成</p> <p>本学部では、平成 25 年度より新カリキュラムを導入したが、制限ある教室数の中で、効果を最大限に発揮できるよう、平成 26 年度の英語関連科目についても時間割再編成を行った。各科目を分散化して配置し、学生がより体系的に授業を履修できる編成とした。また、4 つの必修英語科目のうち、アウトプット重視の 2 科目は、主にネイティブ講師の担当、インプット重視かつ日本語による解説が効率的効果的な他の 2 科目は主に日本人講師の担当とした。</p> <p>必修英語の統一テキストの再検討も行い、従来すべてのレベルに同一のテキストを使用していたのを改め、科目によっては、レベルに対応したテキストを選定した。</p> <p>② 英語選択科目の見直し</p> <p>前年度まで TOEIC 対策を中心とする英語選択科目は、履修条件に TOEIC スコアが要求されていたこともあり、履修者の数が伸びなかった。そのため、平成 26 年度よりこの履修制限を取り除き、スコアの有無にかかわらず、やる気のある学生が自由に履修できることとした。それに伴い、TOEIC スコアが科目名になっていたのを改め、「TOEIC 500」を「TOEIC 入門」、「TOEIC 600」を「TOEIC 初級」、「TOEIC 700」を「TOEIC 中級」とした。同様に、「ケンブリッジ英検」を「英語資格試験対策」と変更し、ケンブリッジ英検に特化せず、英検など他の資格試験も扱う内容の科目とした。</p> <p>③ English Café の試験的实施</p> <p>本学では、英語の授業以外に英語を使う機会がないことから、学生が日頃勉強している英語を実践する場として、English Café を平成 25 年度後期に試験的に実施した。英語の実践だけでなく、英語圏という異文化を体験し、また留学、英語力向上などの目的を共有する学生の集いの場を提供することを目的とした。まず、6 月に、英語必修クラス 23 クラス、選択クラス 2 クラス、合計 25 クラスの学生（合計 599 名）を対象にアンケートを実施し、英語を話す場に対する学生のニーズ、実施する場合、希望する曜日時限について調査した。アンケートの結果、学生の 65%がネイティブスピーカーと会話する機会を望み、60%がこのような機会があれば利用したいと考えていることがわかった。また、実施にあたって、特定の曜日時限に希望が集中することはなかった。</p> <p>後期より、1 回 60 分から 90 分の枠で週に 4 回セッションを設定し、本学の非常勤ネイティブ講師 4 名が担当した。利用は予約制、各セッション 5 名を上限とした。また、予約なしでの学生の参加状況、その際の教員の対応を見るために、予約なしの Open Café を 2 回開催した。学生の利用に関する要望と今後の課題を把握するため、自由記述のアンケートを実施した。その他、量的効果測定を試みとして、数名の学生を対象に SST (スタンダード・スピーキング・テスト) の模擬試験を実施し、プレとポストのスコアを比</p>	

較した。

(2) 研究

平成 25 年度出版論文:

「英語の冠詞習得に関する一考察 — 明示的文法指導の効果をめぐって」、『研究資料集 No. 21 (2013) 』、東海大学教育研究所、pp. 59-67.

「入門期の日英通訳・翻訳指導法の試み」、『通訳翻訳論集 第 1 号』、日本通訳翻訳学会、pp. 19-31.

また、平成 25 年度は、本学より研究奨励費を受け、「英語授業における効果的文法指導の考察」と題し、「わかる」、「楽しい」と思える文法指導を授業でどのように具現化できるのかという問題に取り組んだ。

2 その他の事項

- ・10月に1回、および3月に2回、非常勤講師を集めた教員連絡会を開催し、カリキュラム再編成を含め、英語関連科目に関する説明を行い、講師への周知を図った。
- ・キャリア支援センターの委員として、本学学生の就職サポート体制に関する会合に出席した。
- ・ラジオ高崎の「ラジオゼミナール」に2回登場し、英語の冠詞習得に関し、自身の研究内容について語った。